

C分科会：「中・高校生の継続活動について」

座長の米谷正造氏は、中・高校生の継続活動について、スポーツ少年団と学校運動部活動の相互協力関係を構築するために指導者の相互交流の実践例からその連携の方策を求め、学校運動部との接点をいかにスポーツ少年団として求めていくか、学校教育の中で同じことが言えるなら、理念が共有できるのではないかと説明をした。

パネリストの方々も、中学生がスポーツ少年団で活動できる場、あるいは地域で幼・小・中・成人と一緒にできる活動の場を普及し、学校運動部、学校部活動が抱えるさまざまな問題、少子化、それによる教員の減少や高齢化という問題に直面する中、生徒指導の部活動と、少年団指導者の共通理解、共通の目的を持たないと、納得のいく活動指導ができない。共通理解を持つように話し合い、少年団の育成母集団の組織を通じて少年団指導者と学校との連携を、ワンクッション置いた中でやっていく必要がある。

学校側も地域に対して依頼が困難な中、その間に育成母集団となる保護者の方、PTA等に呼びかけていくことで共通した。

参加者の方から忌憚のない様々なご意見を頂き、スポーツ少年団の評価を学校側はどうするのか。子供たちにとって大きな活動であるので、この評価を学校によって異なるのではなく統一していく必要がある。実践例として、指導者と教員との目的意識の共有化を、外部指導者との関係の中で行っていること。根本的にスポーツ少年団と部活動のあり方を考える必要があるのではないか。

過去3回、今年で4回目になる中・高校生の継続活動の研究報告で、解決の糸口が見つかからない中、スポーツ環境や生活環境を考える上では、地域でのスポーツ少年団と学校の部活動とのあり方を、根本的に再度考え直し、問いただしてみる必要があると課題を残した。